

令和5年度  
(2023年度)

# 吹田市高齢者見守り体制づくり講演会・ 地域ケア会議研修会(合同企画)

## 地域福祉市民フォーラム

### を開催しました!



当日の様子を配信しています

会場とオンラインを合わせて、114名の方に御参加いただきました!

(高齢者見守り活動協力事業者、民生・児童委員、地区福祉委員、介護保険サービス事業者、地域包括支援センター、他)

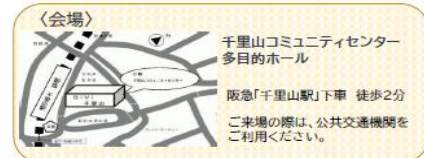
当日の基調講演、活動報告については、右記のURLまたはQRコードより御覧ください。

令和5年度 地域福祉市民フォーラム 吹田市 社会福祉法人 吹田市社会福祉協議会



「自分らしく」を支える=権利擁護について、高齢の方も、障がいのある方も、ご家族も、事業所も、地域のみならずも…みんなで一緒に考えてみませんか。  
成年後見制度とそれを支える地域連携ネットワークについてのお話と、地域での取組事例を発表します。

2024年  
**2/10(土)**  
13:30 ~ 16:15  
参加費 無料



第1部 13:30~14:25

基調講演: 明石 隆行 先生  
『判断能力が不十分な人も地域で自分らしい生活を続けていけるように(権利擁護)支援する地域連携ネットワークの構築に向けて』  
吹田市成年後見制度利用促進体制整備検討会議の委員長による検討状況の報告と権利擁護支援のための地域連携ネットワークづくりについてご講演いただきます。



第2部 14:40~16:15

事業者より取組事例報告  
高齢者や障がいの権利擁護に関する取組事例について、吹田市社会福祉協議会をはじめとする地域福祉の担い手から発表していただきます。

講演・コーディネーター  
明石 隆行 先生  
(神智大学 社会福祉学科 教授)  
吹田市成年後見制度利用促進体制整備検討会議 委員長

<https://www.city.suita.osaka.jp/kenko/1018735/1018742/1018747/1029405.html>

QRコード→



今回のフォーラムでは基調講演に加え、3つの団体に活動報告をしていただきました。フォーラムを通じて、成年後見制度の詳細と、日常生活において「さらに一步の心づかい」が人と人をつなぎ、そこから「権利擁護」のネットワークが広がっていく…、という流れを知ることができました。



本市はこれからも市民の皆様、事業者の皆様のお力添えをいただきながら、権利擁護支援も含めた地域共生社会の構築に取り組んでまいります!

(裏面に、フォーラム内容の抜粋や参加者の声を掲載しています!)



## 基調講演

種智院大学社会福祉学科 教授

明石隆行先生

判断能力が不十分な人も自分らしい生活を続けていくためには、成年後見制度の利用を広げるとともに、成年後見人等と本人、地域の支援機関等とが協力し合うネットワークの構築が重要です。成年後見人は金銭管理だけではなく、その人らしい生活をコーディネートする身上保護も重要な職務であり、地域での安心安全な生活の継続にとって、キーパーソンの役割を担います。

吹田市においても、市民と成年後見人と関係機関それぞれを支援し、成年後見制度の利用を促進する仕組みを早期に整備することが求められています。



## 活動報告

### 大阪よどがわ市民生活協同組合

(組織部 馬場徳二郎様)

生協は、組合員が運営する消費者の組織として、地域住民とともに介護フェアやフードドライブ等にも積極的に取り組んでいます。

高齢者の見守り活動として吹田市では高齢者見守り活動事業者に登録し、茨木市とは協定を締結しています。

商品購入の際の異変をきっかけに高齢利用者を地域包括支援センターに連絡したり、困っている子供を見かけて学校への連絡につながり等、普段からの地域とのつながりを生かし、地域貢献に取り組んでいます。



## 活動報告

### いつき相談支援センター

(相談員 二田有樹様)

引きこもり状態にあった知的な障がいがある方の、親亡き後の生活を支援しています。「ご本人の思いや特性、ペースを尊重し、支援を決めつけないこと」を大切に、医師やヘルパーさんとも協力し、ささやかなコミュニケーションを重ねる中で、少しずつ社会参加が実現しています。

金銭管理、身上保護どちらも支援が必要な状態ではありますが、成年後見制度の利用についてもご本人の心身の安定を第一に、時間をかけて説明を進めているところです。



## 活動報告

### 吹田市社会福祉協議会 (CSW 夏目茜様)

CSW (コミュニティソーシャルワーカー) が個別支援と地域支援について、地区福祉委員などの地域住民の皆さんと協力して活動しています。

複数の課題を抱えながら、支援の受け入れを迷われている世帯でも、「困ったな、だれかに聞いてもらいたいな」と思われたタイミングですぐに支援につながるような、しばらくは世帯の状況を見守りつつ伴走型支援(声掛け等)を継続しました。一つの機関だけではなく、様々な支援者が連携し、「少しはみ出した支援」を心がけることで、安心できる暮らしにつながると思っています。



## 参加者からの声

- ✓ 成年後見人について、言葉は知っていたが詳しくは知らなかったので良い機会でした。
- ✓ 今、とても必要な課題です。理解はすぐにできませんが、人として生きることに関心します。
- ✓ 民生委員をしています。多くの人たちに喜ばれ、お役に立ちたいと日々励んでいます。私たちのような民生委員や一般の方々も支援することが大切なことだと思います。
- ✓ 地域との関りの中で今後何ができるのか…。私たちは、何か異変に気付いたら、相談につなげていきたいと思っています。
- ✓ いろんな方々と共に、協力して進めていけたらいいなと思いました。

